

日本語版

True Peace

Vol. 39

TRUE PARENTS' MESSAGE AND NEWS

天一國 11年
天曆 9月
2023年 陽曆 10月



巻頭言

真の父母様のみ言

真の父母様の動静

特集

HJ NEWS

現場ニュース

天の摂理の勝利に向けた世界宣教、灯火の現場

天一国時代の私たちの責任

天地人の真の父母様主管 神ヨーロッパ中東青年特別集会

文鮮明天地人真の父母天宙聖和 11 周年

宋龍天世界平和統一家庭連合世界会長世界巡回 (神アフリカ)

平和の道アルゼンチン：2023 宗教の自由フォーラム



天の摂理の勝利に向けた世界宣教、灯火の現場

宋龍天 世界平和統一家庭連合世界会長



平和を愛する全世界の食口の皆様、こんにちは。

いつのまにか暑い夏が過ぎ、秋が与える明るくて強烈な色の葉と柔らかい風が、天の父母様の愛として感じられる季節です。2023年もあと3ヶ月残したこの時点で、食口の皆様が今年一年間望まれた穀物を収穫し、豊かな結実を結ぶ期間を過ごされることを心より願います。

私は今年5月、世界平和統一家庭連合の世界会長という重大な職務を命じられるとともに、「早く世界中を巡回しなさい」と語られた、真のお母様のみ言を受け、神ヨーロッパ大陸を皮切りに、神南米、神中米、神アジア太平洋、そして神アフリカ大陸の5大陸を巡回しました。真のお母様がこのように世界巡回を急がれた理由は、天の摂理をめぐって、これ以上退くことができない絶体絶命の切迫さが存在したからです。そんな中、真のお母様は速やかに、全世界が実質的な教会成長を通じて、国家の復帰に向かって進むことを切に願っておられるからです。

真のお母様は、私が世界巡回に出る前に、次の3つのことをお願いされました。

まず、疎通に関するみ言です。すべての問題は世界本部と現場、指導者たちと食口、一世と二世がお互いに膝を突き合わせて疎通してこそ解決できると語られました。第二に、未来人材の発掘に関するみ言です。真のお母様は私に、「できるだけ多くの青年たちに出会い、立派なグローバルリーダーになれるよう励まして、希望を与えて来るように」というみ言をくださいました。第三に、ビジョン2025の勝利に関するみ言です。真のお母様は天苑宮奉献式を基点に新組織と新体制で新しい出発を宣言されました。これに対して「2025 天苑宮入宮式まで、神霊と真理で一つになり、草創期の燃える心情で伝道を通じた実質的な教会成長と神統一韓国の勝利の知らせを響かせるべきだ」というみ言をくださいました。

世界巡回をしながら感動的な瞬間が本当にたくさんありました。真の父母様の命を受けて、一生を投入しながら、現場を照らす灯火となり、黙々と基盤を磨いてきて来られた海外宣教師たちの人生は私に深い感動を与えました。自分の宣教国に強盗が侵入して子供を失ってしまったが、黙々と真の父母様のみ言に従って精誠を尽くす宣教師もいれば、迫害によって幾度も追放されても、再び入国して、み旨を伝える宣教師もいました。健康が限りなく悪化しても「任地で骨を埋めなさい」という真の父母様のみ言を受けて、聖和するその時まで自身の置かれた厳しい環境に屈することなく、より一層その国を愛し、愚直に投入する宣教師たちがいました。

神南米では、真の父母様との深い歴史と思い出が込められたジャルジン修練所が新しく改装される姿を目の当たりにし、日本の国家メシヤを中心に何の支援もない中、不毛の地であるレダに修練所を作り、未来人材発掘に向けた希望の芽が出る姿も見ました。また、神アジア太平洋では、さらに各大陸において、ビジョン2025勝利に向かって、自治体と政府と緊密な共助を形成していく姿は、真のお母様が語られた世界復帰勝利の架け橋の役割を果たすであろうという確信を与えてくれました。さらに、神アフリカでは、真のお母様が物心両面から支援しておられる鮮鶴UPAを卒業したアフリカ特使たちが一つになり、「孝情郎」という名の下、自らアフリカ士官学校を作って活動する姿こそ、アフリカ大陸の希望を感じることができる風景でした。さらに、各大陸ではビジョン2025の勝利に向けて、自治体や政府と緊密な協力を形成していく姿は、真のお母様がおっしゃられた世界復帰勝利の架け橋の役割を果たすと確信することができました。特に国家の復帰1号のサントメ・プリンシペでは、大統領、首相、国会議長との接見を通じて、青年人格教育プログラムとその具体的な方向性について話し合う機会が与えられました。その場でサントメ大統領は「心からこの国は真のお母様の国である」と告白し、真のお母様に感謝と慕わしい思いを伝えました。このように世界各地では指導者と食口が一つになり、真のお母様に約束したビジョン2025勝利のために昼夜を問わず最善を尽くしていました。

愛する全世界の食口の皆様！私たちは現在、新しい時代に生きています。今の時代は実体で待る時代であり、本質を追求する時代であり、孝情を越えて忠節の人生を生きる時代であり、実質的な伝道実績を報告する時代です。

世界本部は、このような時代に歩調を合わせ、真の疎通と共有、透明な組織へと進むことを約束します。1本の矢は簡単に折れますが、固く結ばれた矢の束は折れません。これはまさに立派な集団知性の力です。私たちが一つになってしっかり集まってこそ、ビジョンに向かって遠く進むことができます。私たち皆が一つになって、天の父母様と真の父母様の夢のために切実に祈祷し、精誠を捧げれば、天は私たちの夢と願いを必ず叶えてくださるでしょう。私たちは皆、天一国の孝子・孝女、忠臣となり、喜びと勝利の実績を捧げ、ビジョン2025に向けて総進軍しましょう！ありがとうございます。☞

CONTENTS



巻頭言

- 02 天の摂理の勝利に向けた世界宣教、
灯火の現場
宋龍天 世界平和統一家庭連合世界会長

特集 1

文鮮明天地人真の父母

天宙聖和 11 周年

- 10 文鮮明天地人真の父母
天宙聖和 11 周年
天一國敬拝記念式
- 16 全世界が慶祝した大饗宴
- 21 文鮮明天地人真の父母
天宙聖和 11 周年記念
40 日特別活動の報告

HJ NEWS

- 26 宋龍天 世界平和統一家庭連合世界会長
世界巡回 (神アフリカ)
- 31 神ヨーロッパ中東青年
21 日孝情特別修練会
- 34 UPF 創立 18 周年記念式
- 35 南北統一運動国民連合会長
離就任式



真の父母様のみ言

04 世界の平和

天一國經典天聖經 第十篇 第二章 四節

06 天一國時代の私たちの責任

天一國經典天聖經 第十二篇 第四章 三節

真の父母様の動静

08 天地人の真の父母様主管

神ヨーロッパ中東青年特別集会

現場ニュース

- 28 平和の道アルゼンチン：
2023 宗教の自由フォーラム

孝情証詞

- 46 あなたに導かれるままに
アンロス・アダマス





世界の平和

天一国經典天聖經 第十篇 平和思想 第二章 四節

統一教会の中心思想は、「ために生きる」というものです。そのようにすると、「私」が中心になります。互いにために生きる過程がなければ、家庭の平和がなく、家庭の平和を形成できなければ、民族平和、国家平和、世界平和はありません。ですから、全世界の愛の圏を中心として生きなさいというのです。これは、人類平和の絶対的な要因になるのです。

統一教会の思想は、救援の目標を個人に置いていません。一つの国と一つの世界に置いています。国が救援されて、太平王国になれば、その国の民は太平の民になります。同様に、世界が平和の世界になれば、その世界圏内に属している数多くの民族と国

々も、平和な国家圏をつくるようになります。ここでは、相反圏があって闘争をするものではありません。統一祖国の光復を世界化させ、その世界化された圏内で、普遍的な生活文化を創建できる内容をもつようになるのです。このような思想をもつことが、現在の難局に直面した世界情勢を、新しい局面において打開できる方便です。このような思想が「統一思想」なのです。

本来、人は、心を中心として体を制御し、管理し、統括し、主管して一つの目的を成し遂げる共同目標を達成していかなければなりません。心と体は、そのような相対的基準です。そのような相対的基準を

除去してはいけません。心的なものを中心として体的なものを吸収し、それに同化させることができる新しい運動が、この時代の世界の前に現れなければならないのです。

今後の世界はどうなるのでしょうか。政治的形態が整えられたとって、世界が一つになるのではなく、経済的生活制度が同じだとして、世界が一つになるわけではありません。

政策の方向が一つになってこそ、世界は一つになります。国家間の戦いや決裂のようなものは、どこから始まるのでしょうか。政策の方向が異なることから始まります。それが異なることによって、世界がぶつかったり、分かれたりもします。結局は、考えが異なっているということです。ですから、各々の考えを統合していかなければなりません。

それでは、それを統合するに当たって、人間同士の生活で統合できるのでしょうか、でなければ、神様を中心として統合できるのでしょうか。道は二つしかありません。人間自体としては理想を探し出すことはできません。人間同士の欲望で立てられた政

策理念では、一つの政策方向、一つの路線を追求できる道はありません。ですから、絶対的な思想、絶対的な精神と関連した一つの思想体系を通して、人間の良心と体を通した生活舞台を再現させる道を発掘しなければ、一つの世界を模索することはできず、平和の世界をつくることはできないのです。

統一教会は、「犠牲になりなさい」と教えています。「統一教会の教会員たちは、統一教会より国のために犠牲になりなさい」と言います。国や民族に今までになかった犠牲の心をもってために生きるとすれば、今まで歴史上に現れなかった愛国精神がここから顕現するようになります。ここに国民を愛する新しい伝統が立てられるようになる時、その伝統を立てた団体は滅びません。それさえ植えておけば、万民がその愛の道を喜ぶでしょう。それは過去においても喜び、現在においても喜び、未来においても喜ぶでしょう。時間的にも観念的にも、これを凌駕するものはありません。あらゆるものがこれを標準として終着するようになっていきます。これが母体であり、起源なので、その愛だけが人類に必要なのです。 





天一国時代の私たちの責任

天一国經典天聖經 第十二篇 天一国 第四章 第三節

きょう、私たちは、実に重要な神様の摂理的経綸の中において、あとにも先にもない歴史的で革命的な大転換期を迎えています。人類の善の血統の根として来られた再臨主、メシヤ、救世主、そして真のお父様は、今や霊界に旅立たれました。したがって、私たちは、真の父母様の勝利圏を相続し、平和理想王国を創建すべき摂理の出発点に立つようになったのです。

真のお父様の聖和は、一生涯を共に歩んできた私たち全員にとって、量り知れない苦痛と悲しみです。人類の永遠の愛の本体であられ、真の父母であ

られる神様の心情も、到底、量り知ることができません。しかし、もう一方から見れば、太初の天地創造から神様が立てた天法に従い、この地で人類歴史が始まって以来、誰一人として成し遂げられなかった摂理的課題を完成、完結、完了され、霊肉界を主管されるために、今や霊界へと生を移されたということです。そうして、新しい次元の摂理を開かれる希望の時でもあります。人間が知る、どのような言葉や文章でも表現できません。このような万感迫る中、きょう私たちは、摂理的転換期を迎えたのです。

これから真のお父様は、天法に従って霊界を拠点とされ、自由自在に霊界と肉界を往来されながら、天一国の拡張のために摂理されるでしょう。

真のお父様と私は、一心、一体、一和、一念の境地で摂理を経綸することになるでしょう。「基元節」の勝利を通して、本然のエデンの園をこの地上に創建するために、皆さんと共にいらっしやるでしょう。天の摂理歴史は立ち止まることができないからです。

天も干渉できない蕩滅復帰の摂理路程において、真のお父様と私が経た苦痛は、想像を絶するものでした。その険

難な蕩滅復歸の路程を、誰が畏れ多くも量り知れるというのでしょうか。その勝利的基盤の上に、真のお父様と私は、天が下さった摂理的次元の同等権、同居権、同位権をもつようになったのです。

これから私は、このような歴史的摂理の新しい転換期を迎え、この地を中心とした摂理を主導し、先鋒に立つことを明らかにしながら、次の幾つかのお願いを皆さんにしたいと思います。

第一に、私たちは、真の父母様が立ててくださった伝統を絶対に生命視しなければならず、子孫万代まで相続、伝承させなければなりません。真の父母様は、愛と心情の伝統、み言と規定、規範の伝統、心情文化の伝統を立ててくださいました。特に真の父母様の蕩滅復歸摂理路程の結晶体であるみ言を訓読する訓読会の伝統は、各家庭ではもちろん、教会、そして天を中心とした集会で、最も中心的内容となるようにしなければなりません。併せて、私たちは、この地に新しい秩序を立てていかなければなりません。ですから、組織の秩序と伝統も、真の父母様を中心とした真の家庭とアベルを中心とする中で、一糸乱れず統一体を築いていくのが、真の父母様の伝統であることを肝に銘じてくださるようお願いいたします。

第二に、天が祝福された祝福家庭の理想を完成しなければなりません。家庭は、真の愛、真の生命、真の血統の揺りかごであり、神様の創造目的を実現する基盤です。「家庭盟誓」の八大事項を中心として歩みながら、善の血統の伝統を絶対信仰によって守らなければなりません。私たちの平和のビジョンは、「純潔な愛、幸福な家庭、平和な世界」です。夫婦が絶対愛で天に侍り、一体になる伝統の中で、子女を愛とみ言によって養育しなければなりません。家庭において、訓読会を通して天一国の秩序がしっかりと定着するようにしなければならず、正午定着の基準で縦

的、横的に心情の伝統が定着する祝福の理想を完成しなければなりません。

第三に、皆さんは、氏族的メシヤの祝福を受けたので、この地に天一国が完成するときまで、その使命と責任を果たさなければなりません。氏族的メシヤは、真の父母が下さる祝福の中で最も大きな祝福です。蕩滅復歸摂理の勝利的基台でなければ、墮落人間を氏族のメシヤとして立てることはできないからです。ですから、真の父母様の生涯の摂理的経緯の中では、常に氏族的メシヤの使命が強調されてきたのです。天一国の天宙的完成は、氏族的メシヤたちがその責任を果たし、各氏族にみ言と祝福とために生きる生活を相続させ、善の主権を立てて平和な世界、人類大家族理想の実現を通してこそ可能になるのです。

第四に、私たち全員は、真の父母様と真の家庭を中心として、和合と統一の心情文化共同体を築いていかなければなりません。皆さんは、全員例外なく天の選択と先祖の功績、そして自らの後天的天稟によってみ旨の道と縁が結ばれました。

そして、数多くの迫害を顧みずに真の父母様のあとに従い、今日の勝利圏まで迎えるようになりました。

ですから、私たちは、唯一の父母を中心とした一大家族心情共同体です。世の中は、いまだに分裂と葛藤が満ちあふれていますが、私たち統一家は、人種、国境、およびいかなる障壁も軽く飛び越え、一つの兄弟姉妹になれるのです。ために生きる人生の手本を見せるならば、必ず成し遂げられる夢です。特にこのような摂理の大転換期には、私たち全員が真の父母様と一つにならなければならないことを肝に銘じてくださるようお願いいたします。

真のお父様は今、霊界にいらっしゃいますが、私たちと常に共にいらっしゃいます。ただ無形でいらっしゃるだけであって、一瞬たりとも私たちの傍らを離れることはありません。今、真のお父様は、私たちに何を願っていらっしゃるのでしょうか。正に、中断なき前進を願われているはずです。神様の摂理は、全世界に真の父母を中心として愛と平和が満ちあふれ、心情文化が定着し、新しい秩序が定着するときまで続かなければなりません。特に、「基元節」の勝利を土台として、さらに一路邁進し、天と真の父母様に大きな栄光をお捧げし、世界と歴史に大きな希望を抱かせてあげなければなりません。☞



天地人の真の父母様主管 神ヨーロッパ中東青年特別集会

真の父母様の真の愛の中で、神ヨーロッパ中東青年特別集会が天一国 11 年天曆 7 月 17 日 (陽 9.1)、天正宮博物館で盛況の内に行われた。



皆さんに会いたかったです。人類歴史以来、老若男女を問わず最も愛され、感謝し、貴重な単語があるとすれば何でしょうか？普遍的には「オンマ」です、お母さん。人類歴史を通じて最も大切な母親という存在が埋もれていました。

創造原則を見ると、創造主はご自身の形にかたどって男性と女性を創造しました。人間には成長期間という時間を与えてくださり、完成の場まで進むことができるように待ってくださっていたのですが、彼らは途中で戒めを破ったことによってエデンから追い出されました。そうして始まったのが今日の人類です。全知全能であられる創造主には失敗があり得ません。始まったら必ず結果をご覧にならなければなりません。そのため、天は本然の人類を探すための湯感復帰救援摂理の役事を始められるしかありませんでした。

創造主天の父母様の夢は、地上で真の父母様と子女たちと共に地上天国の生活を送ろうとしたことです。それで、真の父母様と一緒に生活され、永遠の世界に共にいようとされました。それが創造主の夢であり、願いです。

皆が一つになることの出来る道は、父母を探せばよいのです。真の父母です。そこで探し立てるべきは、オンマ、ワンオンマです。ワンオンマに出会えばすべてが解決されるのです。ワンオンマは唯一です。2代、3代、4代と続くほど、彼らにとって、私はワンオンマになります。ここにいる文信出、文信興、UPAの生徒たちにとっても私はワンオンマです。

ですから、母と一つにならなければなりません。皆さんが私と一つになって世の中を変えなければなりません。☞



文鮮明天地人真の父母 天宙聖和11周年

この10年間、天の父母様と真のお父様に孝情の道理を捧げられ、内的な精誠の土台を準備して下さった真のお母様は、真のお父様天宙聖和10周年以降からは、全世界の家庭連合の食口が一つになる中で、人類全体を代表する立場で天の父母様と真のお父様により一層侍る孝子、孝女、忠臣になるようにというみ言をくださった。そのような意味で、天宙聖和11周年記念式は、世界大陸と摂理の現場で大きな祝祭の形で行われた。

文鮮明天地人真の父母天宙聖和11周年天一国敬拝記念式は、第1部天心苑特別精誠を通じて、真のお父様天宙聖和10周年を完全に奉献し、第2部天一国敬拝記念式(陽8.31、午前10時)を通じて天地人真の父母様の心情を相続し、ビジョン2025勝利に向けた新たな出発を決意する時間として行われた。



文鮮明天地人真の父母天宙聖和11周年 天一国敬拝記念式



文鮮明天地人真の父母天宙聖和11周年天一国敬拝記念式が、天一国11年天曆7月17日(陽9.1)0時、真の家庭と国内外の主要人士約2000人が参加した中で、HJ天宙天寶修鍊苑大聖殿で行われた。

敬拝記念式は、世界平和のために一生を生きて来られた、真の父母様の生涯と業績を称え、南北統一を決意する新たな出発の場として、オンラインを通じて全世界に生中継された。

この日の行事は、宋光奭(ソン・ガンソク)世界平和統一家庭連合神韓国協会長の司会で、聖和式記念映像上映、聖燭点火(文孝進家庭・文興進家庭)、開会宣言、天一国歌斉唱、報告祈祷、天一国敬拝式、み言訓読、追慕の詩、回顧談、追慕賛美、記念の挨拶、新しい出発決意の合心祈祷、億万歳三唱、閉会宣言の順で行われた。





宋光奭 家庭連合神韓国協会会長は歓迎の挨拶で、「真のお父様は最後の瞬間まで、天の父母様の解放と人類平和のための努力を止められませんでした。苦しむ人類を残して天国に行かれることを残念に思われました。真のお母様はそのような真のお父様の心情を誰よりもよくご存じていらっしゃったので、天の父母様に侍り、人類救援の責任を果たされるために、『お父様、これからは心配しないでください』と決意され、不足な私たちの手を握り、再び前進されました。口の中が荒れて、足が腫れ、まともに立っていることさえできない苦痛の中でも、それを乗り越えて、天一国安着宣布と天一聖殿奉献を成し遂げられました。」と伝え、「きょう私たちは、ご夫妻の心情を思い出し、天の父母様の祖国を取り戻そうと前進される、真の父母様の切ない心情を慰めて差し上げなければなりません」と伝えた。

李基誠 HJ 天宙天寶修鍊苑天心苑長は、報告祈祷を通じて「勝利された天地人真のお父様！真のお父様は再臨メシヤとしてこの地に来られ、準備された独り娘・真のお母様と奇跡のように出会い、小羊の婚宴に勝利されました。その結果、ついに人類の真の父母として顕現されました。自ら父母の心情で、僕の身を使い、血と汗と涙で世の中を濡らされながら、天宙的な復帰の実績を立てられました。真のお父様は天上に上がられた後、真のお父様は霊界で、真のお母様は地上で摂理を完成されるために、一心・一体・一





念で役事してられました。真のお母様が私たちを強く大胆に育てられ、数多くの試練がありましたが、すべての摂理を勝利に導かれ、天の父母様が直接治められることのできる、新しい時代を開いてくださいました。愛する真のお父様！独り娘、実体聖霊、真のお母様と一つになり、ビジョン 2025 勝利に向けて新しい覚悟と決意で出発致しますので、必ず勝利に向かって前進できるように役事してください！」と懇願した。

この日、鄭元周 (チョン・ウォンジュ) 総裁秘書室第2 秘書室長は「天の父母様に対するご自身の孝情の人生が、全世界に希望の光になりますように」という題名の真のお母様の書信を訓読した。

愛するお父様！いつも共にいらっしゃるお父様！この宇宙にあなたが流された汗と涙が滲んでいない場所はありません。復帰摂理の使命を果たされ、本郷苑に眠られた真のお父様。お父様が慕わしい時には、数えきれないほど本郷苑を上り下りしながら、お父様と数多くの話を交わしました。そのようにしてお父様の考えが私の考えになり、私の考えがお父様の考えになりました。そしてあなたと約束した「草創期の教会に戻り、神霊と真理で教会を復興させる。」と誓いました。口の中が荒れて、足が腫れて、立っていることすらできない困難がありましたが、私は休むことができませんでした。お父様との約束、どんなに辛くとも、私の代で終わらせるという約束を守るためでした。「必ず私が成し遂げてみせる。そのために私は変わらない」と、数え切れないほど誓って生きてきました。

お父様、ご存知でしょう？お父様の聖和以降には、実に言い表せない、「私だけ残りました」という立場でした。まるで荒唐無稽な砂漠に、砂風が吹き荒れるのに、目を開けることの出来ない環境で、小さな針一つを見つけなければならぬ心情でした。しかし、見つけなければなりませんでした。

「2020 年までに 7 カ国を必ず復帰する」という私の決意は、「すべての祝福家庭を神氏族メシヤとして天寶苑に入籍させる」という私の決意は、お父様への私の贈り物です。この贈り物が、天の父母様に対するあなたの孝情の人生が、全世界に希望の光になることを祈ります。お父様、愛しています。



続いて、李成萬 HJ 花鳥苑推進委員長は、「これからは天の父母様の祖国光復」という題目の追慕の詩を通じて、南北統一を祈願した。

あなたは一片丹心、南北統一を誓われ
「祖国よ、明るくなれ」
神様の祖国光復の密使、先鋒に立たれた。
あなたは命を担保に統一の花を咲かせようと
凍土の心臓部、万寿台議事堂で
神主義の頭翼思想を獅子吼吐露され
「血は水より濃い」と、
金日成（キム・イルソン）主席を抱きかかえて、南北統一の大きな扉を開かれ
8000 万の同胞の胸に統一の道しるべを立てられた
アフリカの希望峰からチリのサンティアゴまで
聖体を率いられ、蓬頭亂髪、世界中を享受された
「銃刀を溶かして、鋤と犁さきを作る時が来た」
神統一韓国に向けた進軍の大きな太鼓は鳴らされたのだ
天の父母様、祖国光復
神統一韓国へと進む道に、私たちは一つ
白頭山から漢拏山まで歓喜の園をなす
天よ、このひととき、共にしてください、この国、この民族の瞳となってください



以後、梁昌植 UPF 世界議長は、「10 年で江山も変わると言うけれど、真のお父様に向かう私たちの慕わしさは時が経つにつれて、ますます切実になります。五大洋六大州で人種と国境を越えて、真のお父様に侍り、ついてきて、四大聖賢の誰も在世時に国境を越えることができませんでしたが、真のお父様は国境を越えて世界を宣教された方でした」と語り、「真のお父様が私たちに明かしてくださった、真理と真の愛の光はしばし私たちを悟らせて消えるのではなく、夜も昼も私たちの生活の灯台となり、24 時間 365 日ずっと闇を照らしてくれています。真のお父様は歴史的事実として、過ぎ去った過去ではなく、永遠の現在として私たちの人生の中心に、昨日も今日も明日も、永遠なる現在として生きておられます」と伝えた。続いて梁昌植世界議長は、「真のお父様の『すべて成した』という祈禱は、真のお母様が実体天一国をすべて成されて初めて、ご夫妻の『すべて成した』ということになるでしょう。これからは私たちが立ち上がるべき番です。真のお父様！心配されないでください。真のお父様、私たちがいます。私たちが真のお母様によく侍り、必ず勝利します」と、真のお父様を最後の瞬間まで近くで侍られた回顧談を伝えた。

この日、宋龍天 世界平和統一家庭連合世界会長は、記念演説を通じて「真のお父様を天上世界に送らなければならなかったその日から、もう 11 年という時間が経ちました。真のお父様は宗教の反目と葛藤を清算し、中東平和運動のためにテロが横行するパレスチナ地域に入ることを躊躇されず、宗教対話の道に一生を献身され、人類を平和と愛に導かれました。ソ連のゴルバチョフに会い、共産主義の終焉を堂々と叫び、共生の道を提示し、命を担保に北朝鮮に入り、金日成主体思想では南北を統一できないとし、神主義を躊躇なく叫ぶ姿が今も目の前に浮かびます」と懐かしさを露わにした。「今日、全世界人類が真のお父様の心情を相続し、その生涯を記憶し、独り娘真のお母様の苦労と精誠の土台の上に、ついに天の父母様を地上に安着させる、新しい時代を迎えることになりました」と話し、「新しく始まる偉大な挑戦に向けて、今日 11 周年を迎えられた真のお父様宇宙聖和記念式場で、再出発の意味で、神韓国と全世界すべての大陸と国家が、『ビジョン 2025 国家の復帰必勝！』を固く決意しましょう！」と記念の挨拶に代えた。

この日の行事は全世界大陸が真のお母様のみ旨を受けて、神統一韓国・神統一世界に向けたビジョン 2025 のために前進することを決意した後、李現榮 韓国宗教協議会会長の億万歳三唱を最後に幕を閉じた。☞



全世界が慶祝した大饗宴



文鮮明真のお父様の生涯と業績を称え、南北統一を決意する新しい出発の場に、「文鮮明天地人真の父母天宙聖和 11 周年敬拝記念式」が 194 カ国で双方向オンライン生中継され、国際的な参加者のために 5 か国語で通訳して行われた。

アメリカ

文鮮明天地人真の父母天宙聖和 11 周年記念式が天一国 11 年天曆 7 月 19 日、ワシントン D.C をはじめ、米国各地で開かれた。同日の行事は世界本部が精誠を込めて準備した敬拝記念式をオンラインで視聴し、献花、賛美、回顧談や証、孝情文化公演の順で行われた。

特にワシントン DC の聖和 11 周年記念式は祝福家庭をはじめ、平和大使及び聖職者 220 人が現場参加し、ラ





イブストリームを通じて、約 50 人の祝福家庭が韓国時間に合わせて祈禱と精誠を共に捧げ、厳粛な雰囲気の中で行われた。

ニュージャージーでは祝福家庭 446 人が参加する中、聖和 11 周年記念式と朝食会が行われた。また、テキサスでは祝福家庭、平和大使及び聖職者、UPF 指導者等、135 人が集まる中で、真のお父様聖和 11 周年を記念し、天心苑ワークショップおよび記念礼拝を開催した。記念式を通じて金起勳（キム・ギフン）天議苑長と、デミアン・ダンクリー米国会長は、真のお父様の米国摂理に対する短いメッセージを伝え、記念式の意味を加えた。

同時間、ワシントン州ではラリー牧師と明美・クリシュネク牧師が真のお父様に対する回顧談を伝え、記念式を行った。同日の記念式全体の日程は回顧談、敬拝記念式、賛美、和動の時間、朝食が準備された。

ハワイでは地域の長老 6 人の証で、聖和 11 周年記念式のフィナーレを飾り、ベルベディアでは祝福家庭および地域 VIP142 人が参加する中で、記念礼拝および二世の食口の孝情の証を共有する時間として、聖和記念式が行われた。

それ以外にも文鮮明天地人真の父母天宙聖和 11 周年記念式は、マンハッタン、ロサンゼルス、バージニア、ノースカロライナ、アリゾナ、ノーフォーク、コネティカット、ウースターを始め、米国全域で、精誠を合わせてビジョン 2025 の勝利に向けた決意を捧げる時間として、精誠をこめ準備された。



北ヨーロッパ(英国)

文鮮明天地人真の父母天宙聖和 11 周年の記念式行事が、天一国 11 年天曆 7 月 18 日 (陽 9.2~3)、祝福家庭の食口が参加する中で、英国のリビングストーンハウス及びロンドン全域と一部の地域で行われた。

同日、リビングストーンハウスでは、真のお父様天宙聖和 11 周年を記念して、第 1 部の記念式および礼拝、第 2 部心情体恤および午餐会の順で進行した。特に第 1 部の記念式では、最近韓国で行われた青少年巡礼プログラムに参加した文子夫人とマシュー夫人の孝情の証とともに、追慕公演 (バンド)、追慕賛美、ミュージカル、献花の順で行われた。第 2 部は真の父母様が滞在された部屋を食口たちが訪問し、真のお父様の心情と愛を経験する時間として準備された。また、ウェールズ、西部カントリー、西部ミッドランド全域でも真のお父様 天宙聖和 11 周年記念式が敬拝、祈禱、回顧談、祝賀礼拝等で進行された。

特にバーミンガムでは UPF、世界平和女性連合 (WFWP) 主管記念礼拝が共に行われた。デビッド博士は、真のお父様の使命と主要な業績について説明しながら、人生において最も重要な目的は天の父母様と真の父母様について知り、一心・一体・一念をなすものであることを強調した。続いて真のお父様の平和のための努力と献身に感謝を捧げる時間を持ち、UPF と WFWP の創立を通じた創立者夫妻を中心とした活動についての報告も続いた。

スコットランド天心苑の祈禱室でも、真のお父様のための聖和記念行事が行われた。同日の参加者たちは聖和記念礼拝と献花を通じて、真のお父様の高貴な献身と犠牲を記憶する時間を持った。同日の記念式は、元老家庭 (エリザベスとサイモン) の報告祈禱、追慕賛美 (オンマヤ、ヌナヤ) の順で行われた。

参加者は皆、真のお父様 天宙聖和 11 周年記念式行事を通じて、より真のお父様を追憶し、記憶して、追悼する時間を持ち、真のお母様に侍り、ビジョン 2025 に向かって、前だけを見て最後まで前進しようという力強い決意を固めた。



東ヨーロッパ

文鮮明天地人真の父母天宙聖和 11 周年を迎え、東ヨーロッパで厳肅な追悼の時間が設けられた。

同日、意義深い行事のために、天一国 11 年天曆 7 月 16 日 (陽 8.31)、東ヨーロッパ祝福家庭は誓約式と天曆 7 月 17 日 (陽 9.1)、特別徹夜精誠を行った。そのような精誠の基盤の上に 7 月 18 日 (陽 9.2)、盛大な聖和記念式が挙行された。

全体の日程は韓国時間に合わせて、オンライン生中継を通じて真の父母様と深い心情的連帯感を形成し、全世界の祝福家庭と共同体意識を持ち、和合を図る儀式として行われた。



中南米(ドミニカ)

世界本部と一つになり、ドミニカ共和国現地教会では、文鮮明天地人真の父母天宙聖和 11 周年記念式が天一国 11 年天曆 7 月 17 日 (陽 9.1)、サントドミンゴ本部で約 100 人が出席する中で行われた。同日の行事はフェルナンド・クルーズ国家指導者の司会により、開会の挨拶、ろうそく点火に続き、代表者敬拝(レオニダース・ベリアード牧師)、み言および報告祈祷(フェルナンド・クルーズ国家指導者)、映像視聴、記念撮影の順で行われた。



アフリカ(コンゴ民主共和国)

アフリカのコンゴ民主共和国でも、真のお父様天宙聖和 11 周年記念式が首都キンシャサ国立センターで、家庭連合食口が約 400 人参加した中で成功的に開かれた。それと共に、同日の行事は PeaceTV を通じて、アフリカの全地域で約 3,750 人の食口が参加した。

行事の参加者たちは鄭元周(チョンウォンジュ)第 2 秘書室秘書室長の「書信朗読」を通じて、真のお父様に対する、真のお母様の深い愛と精誠、慕わしさを悟り、命が尽きるその日まで、天の摂理を完成されるために前進しようとする、切実な心情と孝情の心情を相続する時間になったと明らかにした。

それだけでなく、宋龍天(ソン・ヨンチョン)世界平和統一家庭連合世界会長の記念の挨拶と梁昌植(ヤン・チャンシク)天宙平和連合世界議長の回顧談、李成萬 HJ の園推進委員長の追慕の詩は、皆の心の琴線に触れ、真のお母様に侍り、伝道倍加勝利をしなければならないということを強調した。

世界本部が主軸となって行われた聖和 11 周年記念行事の第 2 部は、特別集会として準備された。コンゴ中部地方「ル・デル・リカテ」で行われたこの日の集会は、真の父母様の生涯路程の講義と文化公演、特別講演の時間として設けられた。

この日の行事を基盤にアフリカ・コンゴでは真の父母様のメッセージを中心に「創造原理」、「真の愛の人生」、「天の父母様のみ旨」、「この時代の人間の役割」についてより一層強調し、神と人間との壁を除去し、個人と個人の間の壁を取り壊し、善の世界に進むために道を模索しようと誓った。☞



文鮮明天地人真の父母天宙聖和11周年記念 40日特別活動の報告



ヨーロッパ

ベラルーシ、リディア・イワニソワ

真のお母様の自叙伝「平和の母」を完読した私は、「人類は一家族、一兄弟」という大命題の下、東西諸国を結ぶ国際平和高速道路の建設が何よりも重要であることを悟られました。

そこで、真のお父様天宙聖和 11 周年記念精誠期間 40 日特別活動として、私は真の父母様の摂理完成のための精誠の土台作りとして、ベーリング海峡の幅である合計 85km を走り、真の父母様の心情を伝えました。そして、ついに 40 日目に私は 85km を完走することができました。天の父母様！ 天地人真の父母様だけを思い、み旨の前により一層近づける子女になるために、これからもっと精誠を尽くして活動していきます。



スペイン、エクトル・マキアス

真のお父様天宙聖和 11 周年記念精誠期間 40 日特別活動を捧げる中、8 月 20 日から 21 日の両日にかけて、30 人余りの関係者が参加する中、バルセロナ・グラシア地域の祝祭が開催されました。この地域で各宗教間の対話と文化交流促進の場が設けられたのは初めてです。その日、私は真の父母様が主唱される宗教間の和合と真の家庭の価値について簡単に発表する機会を得ました。そして 40 日精誠期間の 21 日目に、人権と自由に関する小規模読書集会も開設することができました。その後も地域社会で活動や様々な小グループ集会を通じて真の父母様を証し、誇ることのできる機会をもっと多く持とうと誓う貴い精誠期間となりました。

スペイン、ルイス・コンチータ・アビディア

真のお父様天宙聖和 11 周年記念精誠期間 40 日特別活動のために、私は 20 年間カトリック修道女だった近所のお年寄りのところを訪問し、統一原理を教育するために一緒に勉強する時間をもちました。同時に、精誠の一環として、毎日毎日一日も欠かさず真の父母様に茶菓子をお捧げし、フェイスブックで真の父母様の生涯についての短い文章をシェアする時間ももちました。また、私と私の夫は週に 2 回開かれる天心苑祈禱会に参加し、私たち夫婦に与えられた天の父母様と真の父母様の大きな愛と祝福に感謝しました。そんなある日、私たち夫婦が公園を散歩していたとき、とても爽やかな風、楽しそうな鳥の声、公園で楽しく遊んでいた子供が挨拶をする姿を見て、真実なる天の父母様の愛を体恤することができました。「天の父母様は特別な場所ではなく、いつも日常を通して私たちに惜しみない愛と関心を注いでくださっているのだ！」と思わされ、私たちはこの精誠が特別期間を過ぎても、より長く、より多くの人に伝えられることを願いました。

スペイン、メルセデス・トミタ

私は真のお父様天宙聖和 11 周年記念精誠期間 40 日特別活動の一環として「2023 特別伝道活動」を行いました。活動は 7 月 23 日から 8 月 31 日までの 40 日間行われました。

私はとにかくワッツアップとフェイスブックにあった連絡先を通して、真の愛による祝福の価値について伝えました。2 日目、祈禱と敬拝の精誠を捧げてから、私は統一原理を中心に路上での活動を始めました。3 日目には、一軒一軒のポストに真の父母様のメッセージの小冊子を片っ端から入れていきました。もちろん次の日も、また次の日も欠かさず私と夫は祈禱と敬拝の精誠を捧げてから、チラシを配り、天が私たち夫婦を通して天の父母様が探している人を見つけられるようお願いながら、近所はもちろん、地域の人たちに伝わるよう祈りました。一日も早く真の父母様とつながれることを願いました。すると、天のみ業が起こりました。私たち夫婦を通して人がつながるようになりだして、ついに真の父母様の自叙伝普及に加え、聖酒式まで行うことができるようになったのです。真のお父様の聖和 11 周年を記念して、特別な精誠を捧げさせてくださった真のお母様に心から感謝いたします。

フランス、ジャッキー・ユ&アン家庭(6000双)

真のお父様天宙聖和 11 周年特別精誠期間、私たち夫婦は週に 3～4 回、伝道活動に励みました。周囲の人にランダムに連絡し訪問した結果、2 人の新規食口を伝道することができました。そのうちの 1 人はこれから先祖解怨式に参加する予定です。私たち夫婦はこのような結果に心から感謝し、真のお父様聖和 11 周年期間以降も、真のお母様の無限なる愛と献身に報いるため、着実に伝道活動を続けていく計画です。真のお母様！私たちの愛も真のお母様に届くことを切に願います。真のお母様、常に健康でありますように！



フランス、シャルル・デュソトワール

私は7月から8月まで、真のお父様天宙聖和 11 周年記念 40 日特別精誠期間を通じて、毎朝毎晩祈禱会と 50 拝敬拝を行いました。その期間でフランスに善なる霊的基盤を築くために、フランスのカトリック司祭（韓国のキリスト教に影響を与えた）及び、フランスのルイ・シャルル王子とその息子、そして兵士たちを一人一人傍系解怨していきました。こうした基盤のおかげなのか、40 日精誠の一環として、親戚の人たちに会ったとき、二人の妹たち夫婦が聖酒式に参加できるようになるという大変な役事が起こりました。それだけでなく、20 年ぶりに会った甥っ子に家庭連合の紹介をし、真のお母様の自叙伝まで渡せるという出来事がありました。すべてが霊界の天の父母様と真のお父様、地上で摂理を導いておられる真のお母様の愛があったからこそ可能なことであったことを告白したいと思います。

フランス、ミリアム・トラシェーズ

真のお父様天宙聖和 40 日精誠期間中の7月27日、韓国戦争停戦 70 周年を迎え、私は当時退役軍人であった父と他の兵士たちを追悼するための精誠の時間を持つために公園墓地を訪れました。そのとき、公園の案内人のダニエルが私の所に来て、彼の管理室に私を招待してくれるということが起こりました。そして、そこで彼は別の友人であるエディを私に紹介してくれたばかりか、当時退役軍人であった自分の父親（元カトリック大学の歴史学者）を紹介してくれたのです。彼らと色々な話をするうちに、私はひょっとしてと思い、その人に私の父の写真を見せると、彼はひどく驚いて私の父との思い出を思い浮かべながら話してくれました。瞬間、霊界におられる真のお父様と私の先祖が役事していると思えませんでした。地上の真のお母様がどれだけ私に良い巡り合わせを持たせるために努力しておられるかを感じることができました。心からその恩恵に感謝いたします。



チェコ共和国、マルティーン・マスナー

真のお父様天宙聖和 40 日精誠期間に私たち夫婦は、1 世と 2 世の間隙を埋めるために、14 日間(2 週間)の統一原理ワークショップに参加しました。初日は全員にとってチャレンジが必要な日でしたが、その後、参加者全員が統一原理と真の父母様の生涯の業績が世界に広められなければならないという内容に同意し、それがいかに価値があり、自分たちの霊的成長の大きな力になるかを悟れるようになりました。真の父母様、心から愛しています。

ロシア、ハヤト・メティオルキナ

私は2020年からオンラインチャンネル(ワッツアップ、テレグラム)を通じて、子どもを持つ母親のためのディスカッションの場を提供してきました。オンラインチャンネルは互いに多くの内容を共有できるようにしてくれ、その後、真の父母経、天聖經、統一原理、真の父母様の自叙伝の内容も共有できる窓口になりました。その後、私は彼らが天の父母様と真の父母様の摂理、み言により深く関心を持てるよう、様々な小グループの集いも開催しました。そして現在、彼らは職場でも家庭でも、日常生活の中でみ言に頻繁に接することができるようになりました。真のお父様聖和11周年特別精誠期間、私はみ言が日常生活に染み込むよう世界経典を訓読し、み言が生活の一部ではなく、日常となる時間を過ごすために努力しました。天の父母様のみ旨を中心にして真の父母様に侍るということ、伝統を守るということ、共に信じて頼りとし力になってくれることに感謝を感じる貴い時間を与えてくださった真のお母様に、すべての栄光を捧げたいと思います。

ロシア、ロマン・ペトロフ

真のお父様聖和11周年40日特別精誠期間、私は真の父母様のために敬拝精誠の時間を持ちました。一日平均1時間半から2時間かけて、私が立てた条件を完成できるよう努めました。それだけではなく、路上で真の父母様を証する歌を通して、大学街で統一原理を広めるための時間を持ち、私が持つ知識と能力、人脈を総動員しました。しかし、私はこれだけでも十分だと考え、現在も精誠を続けています。

ロシア、タティナア・エダキナ

私は真のお父様聖和11周年40日特別精誠期間、夫が3人の子供の世話をしてくれたおかげで、一生懸命活動することができました。普段、教会の食口たちと個人的な親密さがあまりなかったので、最初の週の活動には様々な困難が伴いましたが、これも天の父母様が私の足りない点を体恤させてくれる訓練期間だと思いました。その後、活動は次第に安定し、天心苑徹夜祈禱を通して天の父母様と真の父母様から多くの慰労と愛を感じることができました。40日間の伝道活動と天心苑祈禱会が土台となり、時間を見つけて親戚を訪問したときは、以前と違って多くの内容を伝えることができました。そして、過去の否定的な視線ではなく、お互いに共感し理解できる部分もたくさんできました。ありがとうございました。

イギリス、シズコ・バレット

真のお父様聖和11周年40日特別精誠期間、私と私の妻は真の父母様の自叙伝普及のために一軒一軒訪問する時間を持ちました。私たちは毎週木曜日に平和センターで定期的な集まりを持ち、私たちが会いに行ける外部の人々とできるだけ多く接触することを決意しました。ビデオ講義とノートを持ち、繰り返し訪問し、40日間で21人の新しい人と交流を続けることができました。そして5人の新規をセンターに連れてきて、少なくとも週に1回以上原理講義の教育を続けることができました。今年5月の天苑宮天一聖殿奉献式のと、真のお母様が天心苑の重要性を強調されたので、私たちのピースセンターに天心苑を設置し、多くの人が霊的な世界とも繋がれるように努力しています。天の父母様と真の父母様に侍って貴い時間を持てるようにくださった真の父母様に心から感謝いたします。



イギリス、デビッド&パトリシア・アール家庭

家庭連合、天宙平和連合、女性連合の会員たちは、真のお父様天宙聖和 11 周年 40 日特別精誠を終えた 9 月 3 日に合同記念礼拝を開きました。この日の礼拝には、キリスト教、イスラム教、シーク教、ヒンドゥー教の伝統を持つ人々が参加し、皆、真のお父様の驚異的で世界的な業績に驚きを連発していました。この日、市議会議員や警察幹部、イギリスのシーク教共同会長をはじめとする数名の VIP たちは、各自の感想を公式的に発表しました。出席者の中には、ビジョン 2020 の行事に参加した方もいて、その人は「大きな行事を開催したのに、一人もコロナに感染しなかったのは天の加護があったからだ。」と、驚くべきヒストリーを伝えてくれました。もう一人は、宗団代表(モハメッド・イドリエス)として 2007 年 7 月に韓国での大会に参加したことがありますが、今でもそのときの雰囲気忘れられないと語ってくれました。参加者たちは、真の父母様の生涯の業績が未来の子孫たちにしっかり伝えられることを希望しました。

イギリス、ラッセル・ゴフ

真のお父様天宙聖和 11 周年精誠期間中、新規信者修練会を 7 月 26 日から 8 月 4 日までリバーサウスコミュニティで開催しました。3 回にわたって開催された修練会には 6 人の新規信者を含む 11 人の会員が参加しました。その後、修練会を修了した新規信者を対象に 2 日修練会を開催中で、今年の年末には 7 日修練会を行い、より多くの人が真の父母様に侍ることができるように準備する計画です。そのために、私たち夫婦はすべての内容を担当し、行動に移せる総責任者も立て、その後センターも設けて、すべての人が私たちの共同体を身近に感じられるように努力していきます。ありがとうございました。

オーストリア、エルンスト・イングリッド・ハウセデ家庭

真のお父様天宙聖和 11 周年精誠期間、私と夫は 40 日、敬礼精誠、ウィーン天心苑祈禱会、路上伝道、徹夜祈禱会 (zoom)、休眠食口訪問をしました。私たち夫婦はショッピングセンターと路上で人々に会い、真の父母様の一生涯の願いである「世界平和」と愛を紹介しました。さらに、真のお母様の最近の摂理を紹介し、私たちの夫婦は個人的な復活と成長を経験する時間を持つようになりました。このような時間を設けてくださった真のお母様、誠にありがとうございます。🙏



宋龍天 世界平和統一家庭連合世界会長 世界巡回（神アフリカ）

宋龍天世界平和統一家庭連合世界会長は、真の父母様の命により、世界 5 大陸を巡回する中、その最後の巡回日程として、天一国 11 年天曆 6 月 19 日から天曆 7 月 4 日まで（陽 8.5~15）、神アフリカ大陸を巡回した。

巡回期間、宋龍天家庭連合世界会長は真のお母様の愛のメッセンジャーとなり、神アフリカの指導者と食口に真のお母様の温かい心情と愛をはじめとして、懸念と心配を代わりに伝え、神アフリカも孝情の道理を尽くす孝子・孝女となることを強調した。

恩恵に満ちた食口集会

宋龍天世界会長の神アフリカ巡礼の日程は、コンゴ民主共和国、南アフリカ共和国、ザンビア、セネガル、サントメ・プリンシペなど計 5 カ国で行われ、この期間指導者会議をはじめ、食口集会や青年集会、天心苑の祈禱会、VIP 接見、ゴレ島訪問などが続いた。

神アフリカ大陸、コンゴ民主共和国を一番先に訪問した宋龍天世界会長は指導者総会を通じて戦略会議の時間を設け、核心課題を公論化して現場中心の問題解決に向けた方策の模索に乗り出した。さらに、食口特別集会が神アフリカ大陸全域 1,135 人の食口らが出席する中、オンラインで行われた。





以降、ザンビア、南アフリカ共和国、セネガルでも食口集会が行われた。これら4カ国の食口数は少なかったが、天の父母様と真のお母様に向けた彼らの情熱は目に余るものだった。神アフリカ指導者と食口たちは、真のお母様に代わって巡回している宋龍天世界会長の一言一言に、歓喜と拍手はもちろん、アフリカ特有の歓声で応え、真のお母様の愛にお応えする姿を見せた。

これに宋龍天世界会長は「神アフリカの実質的な成長と透明性のある方案の準備を通じて、アフリカ大陸の希望を感じることができる時間になった」と伝えた。

希望あふれる神アフリカの未来世代

以降、行われたYSP青年集会では特に、ミカ・アメルニアン・カマラ神アフリカ副大陸会長(UPA 2期青年特使)の報告が注目を集めた。彼女は報告を通じて、「神アフリカは人口年齢のうち20歳以下が62%を占める青年大陸だ。また、家庭連合在籍人口のうち40歳以下が現在二世5,982人、一世7,048人で計13,030人に上る。アフリカ大陸青年人口のうち、家庭連合の在籍人口が70%以上に該当するということを意味する」と伝え、現在、真のお母様のみ言を受けて推進中の「孝情朗アフリカ」未来指導者養成プロジェクトを紹介した。本プロジェクトは「第一に、アフリカ青年たちが真のお母様と絶対的に一つになった天一国指導者へと成長できるように指導しており、第二に、教会と摂理機関を主導的に導いていくことができるよう、未来人材の力量を強化している」と伝え、「第三に、現場実務に必要な能力を持ち合わせた指導者として、人材を養成することを目標にしている」と伝え、アフリカの希望的な未来を示した。

同日夕方、宋龍天世界会長と世界巡回チーム、そして神アフリカ大陸指導者、食口は天心苑の祈禱会を通じて、真のお母様のみ言が神アフリカ全域に一日も早く実体化されることを、自分たちを通じて神アフリカ大陸にビジョン2025勝利が成就することを祈った。



国家復帰第1号：サントメ・プリンシペ

真のお母様の「今回の大陸巡回の時に国家の復帰第1号国家として祝福を受けた、サントメ・プリンシペを必ず訪問するようにしなさい!」との命により、宋龍天世界会長と巡回チームは3泊4日間のサントメの日程を計画した。コンゴ民主共和国の日程に続き、サントメに到着した巡回チームは翌日、天の役事を通じて、出会うのが難しいと予想していた、パトリス・トロヴォアダ サントメ首相との面談を円滑に行うことができた。サントメ首相は2008年から数回首相を歴任した優秀な人材で、実質的にサントメ国家を運営する指導者である。

翌日午前、宋龍天世界会長は、サントメ国会でシェルミラ・セクラメント国会議長に会うことが出来、午後にはカルロス・ビラ・ノヴァ大統領に謁見するという快挙を成し遂げた。シェルミラ国会議長はサントメの国家を思って、世界巡回使節団を送ってくださった、真のお母様に深く感謝を捧げ、「マザー・ムーンの自叙伝に、昨年UPFを通じて触れたことがある。自叙伝の最初のページに一番先に言及されたサントメ・プリンシペについての内容を読みながら、サントメに対するマザー・ムーン的心情を感じることができた」と伝え、「サントメ・プリンシペはマザー・ムーンの国である。いつでも歓迎する」との言葉を伝えた。

宋龍天世界会長は、サントメ・プリンシペ大統領、首相、国会議長との出会いを通じて、真のお母様の指針である青年人格教育を共同で推進することを約束した。

宋龍天世界会長とサントメVIP首脳との出会いは、当時、サントメの国営放送を通じて、トップ記事で報道された。



(左から)カルロス・ビラ・ノヴァ大統領(左から四番目)、パトリス・トロヴォアダサントメ首相(右側)、シェルミラ・セクラメント国会議長(右から六番目)



実質的教団復帰の路程：南アフリカ共和国ハデベ教団訪問

今回の世界会長のアフリカ巡回のもう一つの目的は、2020年に天に捧げた教団復帰の結実であり、実でもある、ハデベ教団との関係回復にあった。サムエル・ハデベ預言者はアフリカに500万信徒を従えた「神様の啓示教会」創立者である。また、真のお母様が任命されたIAPD アフリカ議長だ。コロナの影響で疎遠になった関係に対する懸念とは異なり、ハデベ預言者は真のお母様に対する変わらぬ信頼と愛を示し、家庭連合の新任世界会長を熱烈に歓迎してくれた。

実にハデベ預言者は、真のお母様に会うかなり前から「いつか未来に偉大な東洋の女性が現れ、世の中を率い、世界を指導するだろう」という啓示を受けたと伝えている。ハデベ預言者は、真のお母様にお会いしてきて以降、その東洋の女性が真のお母様であることを確信し、真の父母様の生涯路程、真のお母様のみ言を学習し、真のお母様のみ言とみ旨が、すなわち世界を一つにし、導いていくと証した。

宋龍天世界会長が出会ったハデベ預言者は、「真のお母様が直接IAPD アフリカ議長に任命されたので、その立場を非常に真剣に考えている」と語り、「IAPD活動を活発に展開するために、すでにトーゴ、ベナン、ナイジェリア、ガーナ、モザンビークなど5ヶ国を中心にIAPD支部が発足した」と伝えた。また、ハデベ預言者は個人所有の建物にIAPD本部の事務室を設け、今回の巡回期間を通じて正式な開館式を開催した。



(一列目、右側)インボニ・ウジ・レチェ・ハデベ(神様の啓示教会 預言者)

神アフリカ大陸巡回の総合整理

真のお母様の命によって出発した世界巡回の内、最後の巡回地である神アフリカ大陸巡回の結果は、次のように総合的に整理できる。

第一に、新型コロナウイルス感染症以降低迷している神アフリカ大陸が新たに出発できる巡回であった。宋龍天世界会長をはじめとする世界巡回チームは、大陸本部のあるコンゴ民主共和国を皮切りに、南アフリカ、ザンビア、セネガル、サントメ・プリンシペまで、それぞれ中央-南-西-北-東の経路で巡回し、神アフリカ大陸を全般的に巡回することができた。その結果、真のお母様のみ言が神アフリカ全域に根付く機会となった。第二に、失われた関係回復のための巡回だった。ハデベ預言者、ウンダンガ大司教、マンスール首長など、真のお母様が神アフリカを通じて育ててくださったアフリカ教団の指導者たちが、真のお母様への愛を再確認する関係回復の機会となり、国家の復帰第1号国家であるサントメ・プリンシペとの関係も、国家首長をはじめとする政府首脳との出会いを通じて、関係をさらに深める機会となった。このような巡回の結実は、真のお母様が築いた神アフリカの基盤をさらに強固にする結果をもたらした。第三に、新たに霊的基盤を構築する巡回であった。お母様がアフリカ分苑長に特別に任命してくださったファン・ソンミン、佐桑分苑長を中心に、新型コロナウイルス感染症以後沈滞した神アフリカ大陸の霊性を平和の母独り娘、実体聖霊真のお母様を中心に完全に新しく生まれ変わるようにするための、新たな出発の契機を設けてくださった。第四に、神アフリカの指導者と食口が実質的な教会成長のために新たに出発することのできる巡回だった。今回の神アフリカ大陸巡回の核心的目標である、実質的な教会成長の目標を巡り、神アフリカ大陸がモデルになれるよう、指導者と食口を励ます時間になった。

神アフリカ巡回は、真のお母様と世界本部が一つになった中で、神アフリカ大陸の指導者と食口が一つになって行われ、神統一韓国・神統一世界に向けたビジョン2025勝利を決意する貴重な時間となった。

去る5月、真のお母様の命を受けて天暦4月6日から7月4日まで(陽6.14~8.19)、世界巡回に臨んだ宋龍天世界会長と世界巡回チームは神ヨーロッパ、神中南米、神アジア太平洋に続き、神アフリカ世界巡回を盛況裏に終えた。🌀



(一列目、左側)シェイク・マンスール(イスラム教宗派指導者)

神ヨーロッパ中東青年 21日孝情特別修練会

神ヨーロッパ中東の青年21日孝情特別修練会が、天一国11年天曆7月6日から19日(陽曆8月21日~9月3日)までHJ天宙天寶修練苑で行われた。

特に今回の修練会は、独り娘、真のお母様の深い関心と愛の中で、神ヨーロッパ中東30カ国から120人の青年が参加し成功裏に開催された。

修練会に参加した青年たちは、真の父母様の生涯路程、賛美役事、聖地巡礼、天寶特別講義、天寶賛美、天心苑祈祷などのプログラムを通じて、天の父母様と真の父母様の深い心情を体恤する時間を持った。

修練期間中、真のお母様は修練生を天正宮博物館に呼ばれ、夢でも忘れることのできないみ言と祝福の時間をもって下さった。



報告と証詞

マイケル・バルコム

神ヨーロッパ中東の青年たちに様々な経験と信仰成熟の時間を設けてくださった真のお母様！心から感謝いたします。真のお母様が用意してくださった愛と精誠の中で、神ヨーロッパ中東の青年たちは、天の父母様、真の父母様とより一つになれる貴い時間を過ごすことができました。また、天の父母様のみ意と真の父母様の使命のために、自分たちの役割と責任を深く悟れる貴重な時間になったと確信します。これから私たち神ヨーロッパ中東の青年たちは、今後のために真のお母様のみ言を基に真の父母様の生涯路程を繰り返し学び、「インパワー」という6カ月の宣教プログラムである神STFで、伝道と万物復帰をしていこうと思います。より完璧に準備された姿で、真のお母様が与えてくださった愛に必ず報います。

ティム・ベルゲ、オーストリア、19歳

私は今回の21日修錬会に参加する前に、何度も天心苑の徹夜祈祷に参加してきたので、修錬会の期間中、毎日天心苑の祈祷に参加できることに感謝しました。李基誠(イ・ギソン)苑長の特別講義で、天心苑の祈祷に対する大きな力にさらに確信が持てるようになりました。このような内容を故郷に帰って兄弟姉妹はもちろん、身近な人に知らせるためにさらに努力していきます。私たちを愛で目覚めさせてくださった真のお母様に心から感謝いたします。





ミキ・モラタ、イスラエル、22歳

21日修練会に参加する前、私の人生は清平とは程遠いものでした。しかし21日修練会を通して、こここそ真のお母様が私たちのために特別に作ってくださった地上天国だと感じました。妍娥(ヨナ)様を通して真のお母様の深い心情を感じ、改めて自分の信仰を整理する時間も持つことができました。特に修練会の間、一から十まで細部にわたって関心と愛で抱いてくださった真のお母様！多くの時間、とても特別で大切な思い出を持たせてくださった真のお母様！心から感謝します。

リュイヴォフ・ザムラ、ウクライナ1世、22歳

青坡洞の日本部教会巡礼を通して、真のお父様、真のお母様の深い心情を体恤することができました。また、草創期の食口たちの心情を思い浮かべ、私自身も神霊と真理で一つになって前進することを誓うことができました。真のお母様、ヨーロッパは心配しないでください。必ず若い私たちのパワーでヨーロッパを守り、もう一度復活させます。

アンドレアス・フォー、ドイツ2世、25歳

私はヨーロッパで、ハワイで、STFをしながら、真のお母様にお会いする機会がたくさんありました。ですが、今回の修練会に参加する前は、正直、教会がとても苦痛でした。み言の理解が全く容易ではなかったからです。独り娘、真のお母様に対して深い疑いがありました。しかし、今回の修練会を通して、真のお母様が直接語られるしかなかった天の真実と、独り娘、真のお母様の位相と価値の部分で多くが解消されました。また、真のお母様が私たちのためにこのような修練会を準備して下さり、天正宮博物館にまで呼んで下さり、多くの愛を注いでくださったことに深い感銘を受けました。真のお母様！お母様に侍って、喜んでお迎えできる環境を必ず整えます。いつもご健康でありますように。ありがとうございました。🙏

UPF 創立 18 周年記念式

世界の紛争を終息させ、平和世界実現という目標の下で創立された UPF 創立 18 周年記念式が、天
一國 11 年天曆 7 月 28 日 (陽 9.12)、青坡洞本部 9 階の大講堂で開催された。

UPF は 2005 年、米ニューヨークのリンカーンセンターで地球村紛争を終息させ、平和世界実現とい
う目標の下で創設された。その後、国連経済社会理事会 (ECOSOC) 特殊協議資格として活動を続ける中、
2018 年 7 月 24 日には国連に登録された約 5,000 の民間非営利団体 (NGO) の内 150 団体にのみ与えられ
る最上位等級である包括的協議地位に昇格し、国際平和運動を続けている。

この日、梁昌植 (ヤン・チャンシク) UPF 世界議長は記念演説で「UPF は創設者文鮮明、韓鶴子総裁ご夫
妻の積極的な指導力で、世界的な組織に拡張された。このすべての基盤の最後のターゲットは、地球上に
最後に残っている分断された祖国、朝鮮半島を統一しようという創設者の最後の傍点にある」と伝えた。
続けて「5 月、UPF 世界本部をニューヨークから韓国に移し、今後韓国で世界 UPF を総括・指揮していく
予定だ。」と話し、「既存団体と共に UPF が国民大統合の求心点となる超国家、超宗教、超文化的な活動に
おいて中心的役割を果たす」と強調した。📷



南北統一運動国民連合会長離就任式

朝鮮半島の平和統一基盤構築と、統一時代の準備に向けて進む南北統一運動国民連合が、国民連合会長の離就任式を国民連合会員約 200 人が参加する中で行われた。

今回の行事は、国民儀礼、功労牌贈呈、花束贈呈、宋光奭(ソン・グァンソク)会長の離任の挨拶、孝情統一合唱団の祝歌、黄善祚(ファン・ソンジョ)議長の就任の挨拶、文妍娥(ムン・ヨナ)鮮鶴学院理事長の激励の挨拶、趙明哲(チョ・ミョンチョル)平安南道知事、キム・ヒョンソク元統一部次官、梁昌植(ヤン・チャンシク)UPF 世界議長による祝辞、パク・バンド慶南会長による億万歳三唱の順で行われた。

宋光奭会長は離任の挨拶で、「在任時、文鮮明・韓鶴子総裁の天命により、統一準備国民委員の教育、韓半島統一共感帯の造成など、南北統一運動に邁進してきたが、その功労で国民連合が 2016 年に大統領表彰まで受けることになり、大きな遣り甲斐を感じている」とし、「統一は我が民族の至上課題であり、未来の希望として全国民が力を合わせて、必ず当代に成し遂げなければならない」と述べた。

続いて黄善祚議長は就任の挨拶で「国民連合は 40 年間、統一運動を持続的に繰り広げてきた独歩的な統一 NGO 団体としてその責任を負うことになり、重い責任感を感じる」と話し、「今は世界的に新冷戦時代であり、南北関係は一寸先も見通せないほどもどかしいけれども、南北はいつでも会うことができ、互





いに会って、共に豊かに暮らす、幸せな世の中を作っていけるように、創設者のビジョンを基に、様々な
 方案を設計していく」と明らかにした。

この日、尹錫悦(ユン・ソクヨル)大統領が任命した趙明哲(チョ・ミョンチョル)以北5道平安南道知
 事は祝辞で、「国民連合はトップ3に入る躍動的な統一運動団体であり、創設者である文鮮明・韓鶴子総裁は、
 実践を伴ったバランスの取れた統一観を提示している」とし、「宋光奘会長に続き、黄善祚議長も創設者の
 偉大な民族統一の構想を具現してくれると信じ、平安南道も力を添えたい」と伝えた。

国民連合は1987年5月15日に創立して以来、民族の念願である南北統一を実現するために、統一思
 想に基づいた汎国民統一教育と海外同胞および世界市民の国際的支援と協力を確保するための、国内外の
 統一運動を多様に展開してきた。

50カ国の在外同胞と100余りの主要統一運動団体が参加した「2014統一祈願韓民族平和統一大会」
 を開催し、2015年には統一部、行政自治部および14の市道自治体とともに120カ国が参加する、韓半
 島平和統一ピースロード縦走完了式を光化門広場で国民と共に挙げるなど、このような活動が認められ、
 2014年、民間統一運動団体部門統一部長官賞に続き、2015年に國務總理賞、2016年には大統領賞を受
 賞した。☞



平和の道アルゼンチン： 2023 宗教の自由フォーラム

世界各地で宗教弾圧と人権侵害により民主主義が脅かされている中、普遍的な人権と宗教と思想の自由を模索するための「宗教の自由フォーラム」が「アルゼンチンは平和を選択します」というテーマで天
一 国 11 年 天 曆 7 月 16 日 (陽 曆 8 月 31 日) に開催された。

アルゼンチン宇宙平和連合 (UPF) と神宗教学者連合の共同主催で開かれたフォーラムは、「世界人権宣言第 18 条：すべて人は思想、良心および宗教の自由に対する権利を有する」という趣旨のもと、アルゼンチン中部地域に位置するラ・リオハ州ラ・リオハ国立大学 (UNLaR) のマイクロシネホールでオフラインとオンライン双方向生中継で行われた。

今回のフォーラムには、世界新宗教研究センター (CESNUR: Center for Studies on New Religions) の創設者兼所長であるマッシモ・イントロヴィニエ博士が参加した。



フォーラムは、映像視聴（UPF 紹介および活動、「ピースロード 2023 ラ・リオハ」、宗教間の対話（UNLaR 大学ロクサナ・カイララ博士、UNLaR 教育部学長）、祝辞（ミゲル・ヴェルナー UPF アルゼンチン会長）、スピーチ（オスカー・ガブリエル・ディアス牧師、元正教会総主教序司祭・ダビド・クエーリョ神父・ユダヤ教図書館々長ダビド・ザビド・アグノン）、特別報告（末日聖徒イエス・キリスト教会の指導者ダビド・フロル）、特別講演（CESNUR 創業者マッシモ・イントロヴィニエ所長）、特別映像メッセージ、質疑応答、平和祈禱、文化公演、閉会式の順で行われた。

ミゲル・ヴェルナー UPF アルゼンチン会長は映像で、今回のフォーラムが開催できるよう積極的な関心を寄せ支援をしてくれた当局に感謝の意を表し、UPF の主な活動とピースロードが提案する平和のためのあらゆる分野での集団的な協力の必要性を強調した。

続いてオスカー・ガブリエル・ディアス牧師神父は特別演説で「自由は神が人間に与えた最高の贈り物です。今日の民主的で多元的な社会のために宗教の自由は不可欠です。」と語り、マッシモ・イントロヴィニエ博士は「共産主義はいかなる戦争にも勝つことができない。それは人間が勝てない戦争だからだ。」と述べ、「心から宗教の自由を愛する人なら、この価値が脅かされたときに積極的に守るための努力をしなければならない。」と特定の政府を非難した。

この日のフォーラムには、ラ・リオハのダンテ・グスタボ・ブライダ教区長司教他 6 名、ペドロ・トレス・ラファエラ教区長司教他 7 名、フェデリコ・パラシオス神父（エキュメニズム大司教区及びコルドバ宗教間対話委員会代表）、コンスタンティノーブルのヨシフ・ボスツ大司教兼南米メトロポリタン大司教、コルドバ宗教間委員会のマラ・パラベシーノ代表他 7 名が祝賀メッセージを寄せた。

アルゼンチン UPF は、何世紀にもわたって葛藤と反目が繰り返された宗教の自由に関するテーマを中心に、各宗教が会し疎通する宗教平和フォーラムを定期的に行うことを誓った。✝



(左から)マッシモ・イントロヴィニエ(CESNUR創設者兼所長)
マリア・アレセス(アンカー)
フリオ・バサン(アナウンサー)

あなたに 導かれるままに

アンロス・アダムス | ドイツ、1975年宣教師

私の幼少期は、非常に混沌とし戦争が共存する脅威的で暴力的な時代でした。成長するにつれて、私は自然と自国の利益だけを優先させ、他国に損害を与えた先祖の罪を、先祖に代わって赦されたいと思うようになりました。小さい頃に数々の事件を経験し、大変なカルチャーショックを受け、その中でアフリカのような最も貧しく困難な場所で、奉仕しながら生きていこうという夢を持つようになりました。これは今の自分が存在するようになった強い宗教的信念によるものでした。



1973年、偶然家庭連合が主催する「世界開拓プロジェクト：西アフリカ・トーゴ」のボランティアに参加することになりました。私はこれこそ神の召命だと確信しました。

トーゴに出発する前、何よりも宣教地についての情報収集が必須でした。けれども当時私が知ることができたのは最も基本的な内容だけでした。

非常に虚弱体質だった私が、故郷と家族や友人のもとを離れて他国で奉仕するという事実は、たいへんな恐怖心と緊張の伴うことでした。しかし、世界平和実現のために全生涯を献身された真の父母様の本質的な使命と価値こそ、全世界を平和に導くことができるという絶対的な確信がありました。

当時、私に与えられたミッションは「あなたの国が救われる方法を見つけなさい！」というものでした。

出国に先立ち、私は2千年前のイエス様の時代の使徒たちのような心情で、再臨主、独り娘、真の父母様の使命のために真実なる信仰を持って聖地を訪れ、毎日毎日トーゴのために祈り、精誠を捧げました。真の父母様の真の愛がトーゴにも伝播され拡散されることを願いました。そして私の祖国も救われることを切望しました。私は天の父母様と真の父母様の代弁者、宣教師として、唯一の希望的存在となり、与えられた責任を実践しなければなりませんでした。



期待と不安の思いで過ごした長時間のフライトの末、トーゴのロメ空港に到着しました。そして空港の入り口を出ると、湿った空気と暑い熱気に圧倒されました。ホテルに到着してすぐ、私はドイツ協会に無事到着した旨の確認書を送りました。その後、今まで一度も行ったことのない場所への扉が開かれ、ようやく私の目にトーゴの残酷で悲惨な姿が映るようになりました。極度の貧しさと独裁の結果、不十分なインフラとそれに伴う不公平、不平等は、暗い未来そのものでした。心が引き裂かれる思いでした。

トーゴは広大な草原や美しい海とは対照的に、汚染され病気が蔓延する劣悪な生活環境、非常に基礎的な公共インフラが少なく、非常に危険な場所でした。それだけでなく、軍人や警察、制服を着た共産主義国家の人々があちこちで周囲を監視し、住民を不安にさせていました。

それでも私は気をしっかり持って、何よりも私をトーゴに送ってくださった天の父母様と真の父母様の心情に集中しなければなりませんでした。

トーゴの生活と文化にまだ慣れていないころ、アメリカと日本からそれぞれ1人ずつトーゴの宣教師が派遣されてきました。フランス語に続いて、英語と日本語でコミュニケーションしなければならない私に、言語の違いはもちろん、文化や環境の違いも克服しなければならないという負担がプレッシャーとしてのしかかってきました。しかし、それも束の間、私たち3人は天の父母様のみ旨と真の父母様の心情と一つになり、不可能なことも可能にできると信じて、お互いの違いを埋めるために絶えずコミュニケーションを取っていきました。

礼拝と断食、そして徹夜祈祷を通して、天の父母様と真の父母様の愛を広めるための努力を怠りませんでした。そんなある日、3人の宣教師の長期滞在が不透明になり、1人のアメリカ人宣教師の新しいビザの申請が通らず、ガーナに追放されるということが起こりました。それに続いて日本人宣教師もガーナに追放されるようになったのです。

私は初めてトーゴに到着した時と同じく一人になりました。毎日が実に危険な中での冒険でした。社会人として何の準備もできていない若い外国人女性にとって、天の保護なしには一日たりとも耐えられないような状況でした。そうした状況の中で、私は真に天の父母様と真の父母様の真実なる



み意をトーゴに広めるために、原理講論のフランス語翻訳を始めました。自分でタイピングの仕方を覚え、製本を完成させました。そして、まず初めに住んでいた家の大家さんだったクリスチャンの老夫婦に、どう見ても初心者の翻訳だと分かるフランス語の原理講論を渡しました。その後、その大家さんの紹介で、大家さんの娘婿に会い、初めて原理講義をする機会も得られました。その経験をもとに、私はフランス語の原理講義のガイド案も開発しました。私のフランス語は日に日に上達していきました。そんな中、ドイツ文化センターが、訪問してくる事業家のための通訳を私に任せてくれて、後には専門的な資格まで与えてくれました。さらに、何の社会経験もない私にパートタイムの仕事も提供してくれました。天は本当に合い間をみて私を訓練し、世話をし、守ってくださっていました。

そんな中、私自身も長期滞在の面接を受けなければならなくなりました。結果に確信が持てなかったのも、ただただ不安で焦るばかりでした。しかし、あっという間に私は面接会場に座って答えていました。今考えても、その時私が何を言ったのか思い出せませんが、その時の私の言葉は、確かに私の考えや意志によるものではありませんでした。私を通してトーゴに真の愛を広めなければならないという天の声、真の父母様の心情でした。私の真実なる思いが天と通じる役事が起こったとしか思えませんでした。

その後、私は大学生にアプローチして統一原理を知らせるために大学に進学し、ロシア語を学び始めました。これはみ言による経験を基に準備された戦略でした。そんな中、天は初期にトーゴと一緒に宣教していたアメリカ人宣教師と日本人宣教師を再びトーゴと一緒に宣教できるようにしてください、私たち3人は原理を無条件に受け入れる若いメンバーとも縁を持つことができました。わずか数カ月で一緒に話し合い、歌を歌い、週末のワークショップで真の父母様の統一原理と生涯路程を講義し、指針も伝えることができるようになりました。

トーゴに定着してちょうど3年目のときに、トーゴ独立記念館の近くに最初の聖地を設けることができました。そのことが、私たちがさらに大きく成長する要因となったのだと思います。最初のワークショップのあと、4人の生徒が真の父母様の思想に同調する意思を伝えてきました。そして、



今後私たちと行動を共にすると表明しました。しかし、その2週間後、トーゴ政府は「新しい宗教団体に対する行政方針」を発表し、そのことは大変な困難をもたらすことになりました。私たちは目立たないように活動しなければならなかったため、一時的に滞在する場所を新たに探さなければならなくなりました。

トーゴのロメと首都アビジャン、そしてコートジボワールを経てセネガルに新しい居場所を設けた私は、新しい文化と新しい環境、そして新しい人に接する上で、更なる献身と霊的な努力が必要になりました。大学生との出会い、VIP訪問、キリスト教のボランティア活動などを通じて統一原理を伝え、私自身も聖書はもちろん、コーランまで勉強するようになりました。そんな中でも、私はふとした瞬間に最初の宣教地のトーゴのことを思い出し、忘れることができませんでした。トーゴでの宣教は、私が肉体的にも精神的にもとても大変だった場所ですが、その分、天の父母様、真の父母様と一つになれる私の原点のような場所でした。私の人生の目的を見つけることができる場所でした。だから私はいつか再びトーゴを訪れるという意志を失いませんでした。

そんな中、1980年12月最後の週末、私に天が崩れるような連絡が伝えられました。トーゴ宣教師解任通知が私に届いたのです。私の手足がズタズタに引き裂かれるような感覚でした。私がトーゴを離れて他の地域で宣教活動をしていても、私は誰が何と言おうとトーゴの宣教師なのに、天が私にひどく怒っているような思いがしました。それでも私は当時、自分がどんな間違いを犯したのか分かりませんでした。

大きなショックから抜け出せないまま、私は新年を迎えました。そして、ぼんやりしていた時期に、他の宣教師がナイジェリアのラゴスセンターのために募金活動をしようと私に提案をしてくれました。私は今すぐ自分を立て直せる目的を見つけなければ、死んでしまいそうな気がしました。そこで募金活動を成功裏に終え、1981年2月にラゴスに到着した私は、床にひざまづいてひたすら祈りました。そのとき、「よく帰ってきた」という声が聞こえたのです。疲れきった私の傷をすっかり癒してくれて、新しい希望を与えてくれたその温かさの主人公は、子女を他国に送り出し、とにかく私の安否を心配してくださり、一貫した精誠を尽くされる真の父母様の声に他なりません。

した。我に返ってしばらくして、私は宣教師たちの一部リストラがあったという説明を遅ればせながら耳にしました。すべては私の誤解でした。すべては私の不注意でした。

その後、ナイジェリアと西アフリカの主要メンバー数人は、ニュージーランドから来た有能な指導者と共にセンター生活をしながら、信じられないほど冒険的で驚くべき経験をし、個人的に成長する時間を持つようになります。そして私は1981年11月、ナイジェリアの正式な宣教師として任命されました。これは天の大なる祝福でした。ナイジェリアもやはりアフリカ全体を代表した必須的な使命を持つ場所だったからです。真の父母様の心情で、天の父母様が望まれる国にしなければならぬという使命意識を持って、ナイジェリア全域で歩みを始めました。

1983年のある日、真のお父様が私の夢に現れ、世界平和教授アカデミー (PWPA) の発展のために大きな投資の必要性を強調されました。そして同時に、私にナイジェリアのPWPA支部をしっかりと発展させる責任をくださいました。当時、ナイジェリアには50以上の大学と教育機関がありました。私は夢でお会いした真の父母様でしたが、それも私に与えられたミッションだと考え、成功戦略を講じました。その結果、アメリカで始まった宗教の自由のための記事投稿や、集会・行事にナイジェリアの宗教指導者をはじめ、社会の各界各層の指導者を参加させられるようになったのです。

その後、1985年、ナイジェリアの教授代表団を率いてスイスのジュネーブに行き、共産主義の終焉を宣言することができました。ナイジェリアをはじめとする多くの国の高位級の知識人たちは、真の父母様のビジョンに対し一丸となって声を上げました。私自身も過去にないほど使命意識が燃え上がっていました。

1991年に私の夫と二人の息子がナイジェリア宣教に加わりました。おかげで私は原理講義、VIPとの面会、地域社会での奉仕、そして経済的自立活動へとその範囲を拡大させることができました。私はアメリカから持ち込んだ油絵を国内外の企業や富裕層に販売して宣教資金を確保し、夫も様々なプロジェクトを支援して、祝福結婚と平和のための活動を引っ張ってきました。

そんな中、ついに1993年12月に真のお母様がナイジェリアの首都アブジャを訪問され、1995年11月には真の父母様ご夫妻がブルキナファソ、コートジボワール、ガーナをはじめとする南の数カ国を訪問されました。真の父母様が西アフリカの地に来られたことは、本当に偉大で大変な出来事でした。私を含む数人の宣教師たちは、真の父母様を実際にお迎えして、朝食の席を共にする光栄を賜りました。そして、真のお父様は当時私の夫にナイジェリアのサッカーチームを発展させなければならないというみ言を下さり、そのミッションに従ってナイジェリアの一和サッカーチームが設立されました。その後ナイジェリアは、アフリカ諸国全体の使命を強化する中核的な役割を遂行するという榮譽も与えられました。

それから私たち夫婦は財政的なプレッシャーを非常に深刻に感じ、ラゴスにある国際的なビジネスコンソーシアムの協力を得て、成功したレストランチェーンを作り、様々な事業所を運営するようになりました。その過程で、財政的負担をかなり軽減することができました。

1999年、私たち夫婦はナイジェリアの宣教ミッションを遂行しながら、ヨーロッパの国家指導者の指示により、今後訪れる変化に備えなければなりませんでした。アフリカ宣教を終える準備をしなければならなかったのです。我が家だと思ってきた場所を離れることは、簡単なことではありませんでした。しかし、私たち夫婦はまた新しいミッションのために短い挨拶をして、新しいねぐらへと移動しました。

人間は誰でも予想外の場所で天が準備した祝福を受けることができるという真の父母様のみ言は、私のアフリカ宣教生活を通して真実だと証明されました。アフリカは、最初に私が感じた怖くて恐ろしい場所ではなく、第二の故郷、第二の祖国として、天の父母様と真の父母様の愛を無限に感じることでできる場所になりました。私は私の42年間の宣教人生を通して、天の父母様と真の父母様が共におられ、祝福して下さったことを心から感じる事ができたと確信しています。ありがとうございました。🙏

